

**3 月 期**

〈出典一覧〉

国語 遠藤周作 「くらまの光り」(『古寺巡礼 京都 27 鞍馬寺』所収) 一部改変  
国語 稲村耕雄 『色彩論』 一部改変

淡交社  
岩波書店

問 8 この文章は大きく四段落に分けられる。その第四段落のはじまりの箇所はどこか、本文中から五字で抜き出し、記しなさい。解答番号は 23

問 9 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 24～28

- 24 点描派の作品は、点描の並置によって網膜上における色光の効果を活かしたものであり、まさに古典絵画からの解放といってよい
- 25 インテリアブーム・スタイリストなど商業美術の研究は、それぞれが商業ベースのものであり、抽象絵画の手法とは一線を画し弊害してきた
- 26 経験と手探りの模倣に頼っていた日本の色彩表現は、今後科学的にとらえることで拡大される可能性がある
- 27 赤と黄の「味の香」のパッケージが、人々の注意を惹きつけるその仕組みは、抽象絵画の手法との関係が深い
- 28 民族的な風習による「色彩」とらえ方と、抽象画による「色彩」とらえ方は、結局のところ根底で共通している

第三問 次の問いに答えなさい。

問 1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれ各群の A～E の中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 29～31

- 29 対策手段をコウ<sup>レ</sup>する
  - A コウトウで入学式を挙げる
  - I 親コウコウをする
  - ウ 意味をコウギに理解する
  - E 急なコウバイの坂
- 30 作品のガイヨウをまとめる
  - A ダンガイ絶壁
  - I ガイハクな知識を有する
  - ウ テンガイ孤独の身の上
  - E 困難に負けぬキガイを持つ
- 31 イチジョウの光を見いだす
  - A 土地をショウトする
  - I ロクショウ一間
  - ウ カジヨウ書きにまとめる
  - E ジョウカマチを散策する

問 2 次の文の空欄 X・Y にはいるものを、それぞれ A～E の中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は X 32 Y 33

- 32 一 X を報いる
  - A 矢
  - I 死
  - ウ 子
  - E 指
- 33 人間国宝の Y 心の作を展示する
  - A 改
  - I 会
  - ウ 悔
  - E 快

印象派にさきだつて強烈な色彩効果を探求したのはドラクロアであり、かれは黄色い馬車のかげが紫色にみえることに気づき、補色のコントラストや残像の色も知っていた。ドラクロアの絵を黒白の写真にうつしたのでは、あのロマンティズムは稀薄になつてしまふ。そのことはかれがいたに色によつて表現してゐたかの証拠である。

点描派のスラーや、シニャックの作品ははなれてみるとその効果があらわれる。原色の点描の並置により網膜上における色光の混合をねらつてゐる。眼の焦点を遠くすれば、色加色混合となつて輝いてくるしくみである。しかしこのあたりまでは、まだ外界の色を写實的に画面に移すことであつた。港のまぶしいほどの景色、さわやかな陽をあびる林の道、空の映る睡蓮の池がテーマであつた。

ところが次の段階では、色そのものの訴えるもの、それらの間のハーモニーが意識的に絵にもこめられることになり、見える色をうつすよりは、作者の表現したい何物かを色であらわすことになつてくる。ゴッコンとゴッホの色の美しさとするまじさはそれである。

そして色をうたうカンディンスキー、クレーから、ついに抽象絵画における色の解放に到達することになる。

北歐派的な画家たちは色彩も知的に視覚的言語の手段としてゐるし、それと対立して色彩が及ぼすエモーション的な反応を試みる感覚的なグループも非印象派あるいは抽象派のうちになみうけられる。ここに純粹にとりだされた色の語るところは、ことばである以上、月並な色の意味するものにしてはなれてしまふ傾向がある。暖色と寒色、進出色と後退色、刺激色と鎮静色に分類される色は画家による差異がないことになる。寒色のみで暖い絵を、鎮静色で刺激的なグループをつくりだす魔術師は幾人もいない。このことは現代絵画として抽象派が生きつゝまる運命を暗示する。具象性への転向を試みた画家の何人かは、このような袋小路からぬけだすためであつたろう。

しかしながら、正常な心理状態にあれば民族的な習俗によるものを除けば、色と与える効果が共通であることは商業美術において(大きな意義をもつ)赤と黄の配色がもつとも注意を惹きつけることを知っているのは、たとえば「コカ・コーラ」と「味の素」である。遠くからのもよく見える黄色は「森牛牛乳」がポックスにしている。また黄色は大きくみえることをキャラメル箱につかつて、子供の選択を支配する。うす紫は女性を惹きつけるから、化粧品包装になり、赤は男性に欲望をおこさせるので、紅燈の巻のいろどりとなる。

なぜわれわれは同じような色彩効果を感じるか、これは生理的な作用と心理的な面から説明され、根本は色による連想が、統計的に共通な経験による結果にもつてゐるからである。

絵画、広告、包装、展示における色の表現は急速に進みつつあるがこれまでの日本には経験による手さぐりと模倣しか存在しなかつた。きまりきつた色のつかい方、さまなければならぬ色のはちあわせ、盲目的な多色性、それが大正、昭和のわれわれの外界を特徴づけていた。

しかし色彩を科学的にとらえれば、ということば、色を数字で表わし、ものさしではかり、カラー・ハーモニーと、生理的なものに心理的な作用を知れば、絵画においても商業美術においても作者の創造力は著しく拡大され、色による表現がはじめて生きてくるであらう。

(稲村耕雄「色彩論」による)

注

\*印象派、未来派、立体派、構成主義……それぞれ芸術活動の一派を指す。

\*グループ……完成された絵画作品。

問1 a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は a 15 b 16

15 意匠 16 稀薄

問2 空欄 X にはいる語として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 17

- ア 応じて      イ 則して      ウ 対して      エ 照らして      オ 反して

問3 これは黄色い馬車のかげが紫色にみえることに気づき、とあるが、その気づきがどのような表現をもたらしたと述べているか、その内容を示したものととして、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 18

- ア 空は「青」で「土」は「紫」であるという、固有色からの解放の可能性を開いた表現  
 イ かげに「紫」を配することで、ロマンティズムを際立たせる効果を狙った表現  
 ウ 「黄色」の補色である「紫」を配することで、馬車の存在をより際立たせた表現  
 エ 「白」と「黒」の写真にうつしたときでも、わずかな陰影がみてとれる表現  
 オ 「黄色」と「紫」を並置し、網膜による生理的、心理的效果を狙った表現

問4 まだ外界の色を写實的に画面に移すことであつた、とあるが、画家がこの状況を脱するとはどのようなことか、本文中から二十字で抜き出し、はじめとおわりの五字を記しなさい。解答番号は 19

問5 月並、とあるが、このことばの意味に近い四字熟語として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 20

- ア 千篇一律      イ 巧言令色      ウ 風光明媚      エ 不易流行      オ 融通無碍

問6 色の与える効果が共通であることは商業美術において大きな意義をもつ、とあるが、それはなぜか、その理由を二十五字以内で記しなさい。解答番号は 21

問7 われわれは同じような色彩効果を感じる、とあるが、これは色彩がいかなる機能を持つものとしてとらえられるからか、このことを比喩的に述べている箇所を本文中から五字以内で抜き出し、記しなさい。解答番号は 22

問2 空欄 X にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 3

- ア あるいは イ なぜなら ウ むしろ エ ところが オ まさしく

問3 星にそこを訪れたのは、いわゆる鞍馬のうず桜を眺めたいと思つたからである。とあるが、このような昔の人は大いに異なる。現代人の鞍馬入山の目的を表した他の表現を、本文中から二字で抜き出し、記しなさい。解答番号は 4

- ア 感興をおぼえる イ しみじみとした情懷を感じる ウ ぞっとするほど寂しい
- エ 興ざめである オ はっと気づきびっくりする

問4 すこい とあるが、この文脈における意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 5

問5 空欄 Y にはいる語句として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 6

- ア 自然の力 イ 鬼魅の力 ウ 経験の力 エ 仏道の力 オ 怨念の力

問6 みだりに の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 7

- ア 許しもなく勝手に イ 常と違って大胆に
- エ 落ち着くまもなく オ うわべだけは丁寧に
- ウ はっきりさせず曖昧に

問7 この意識 とあるが、どのような意識か、本文中の語句を用いて、「意識」につながる形で二十五字以内で説明しなさい。なお、「意識」は字数に含めない。解答番号は 8

問8 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 9、13

- 9 筆者は天気の変化から受けた印象などから、くらまを暗間、暗魔と書く方が当てはまると思い、文字にこだわっている
- 10 引用された召波の句には、筆者が実際に見た四月の朧の桜と鞍馬の花の朧と具合の違いがよく表されている
- 11 魔のものを浄化、霊化した例として東寺の十禪師が見た大蛇、鑑禎上人が見た女に似た鬼魅の文章が挙げられている
- 12 「古今著聞集」に書かれている鬼同丸の話には、当時はまだ、鞍馬の浄化が完全ではなかったことが示されている
- 13 くらまを暗間、暗魔と書くことは筆者の身勝手な想像かもしれないが、昔の人々の抱いたイメージとは適合するようである

問9 この文章の筆者である、遠藤周作に関する説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 14

- ア 白樺派 代表作は「和解」
- イ 耽美派 代表作は「刺青」
- ウ 新思潮(新理知)派 代表作は「地獄変」
- エ 新感覚派 代表作は「古都」
- オ 第三の新人 代表作は「沈黙」

第二問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。この文章は一九六〇年に書かれたものである。本文中のドワース、ベン・ニコルソン、エルバン、ドローネー、アルプ、モネ、マネ、ドラククロア、スラー、シニヤック、ゴッガ、カンデンスキー、クレイはすべて画家の名前である。なお、\*の付いた語については、注を参照しなさい。

——色の解放は抽象絵画によってもたらされたもっとも重要なできごとである。いわゆる固有色にしばられていた古典絵画は純粋な色を生かすことができなかったが、抽象絵画の立場にたつ画家にとって、よりあざやかな色ほど、より表現力をもつし、色は人間の肉体にも、心理にも直接に働きかける。

ドワースはこのように語り、さらに黄色は前進し、青は後退する色であることを知りながら、それで二次元の絵に三次元を模倣させようというわけではなく色の物理学と視覚の生理学に関する自然法則の効果、それがねらいであるといっている。ベン・ニコルソンも色と形の解放は抽象絵画によつてなしたと述べられているが、これらの作品では色が主要な重さを持ち、色彩学の色刷よりも雑弁に色の表現力を教えてくれる。エルバン、ドローネー、アルプの非具象画は、いわゆる絵画よりも色彩の心理的ならびに生理的作用をはっきり感じさせるであろう。

印象派、未来派、立体派、構成主義を経て登場した抽象絵画こそ現代における色彩の純正研究といえる。これに X その応用は、商業美術であり、室内の色彩計画であり、また工業意匠ということになり、これらの仕事をコンマーシャル・アーティスト、インテリゲンチヤ・スタイリスト、インダストリアル・デザイナーの研究は逆に抽象絵画の形をとることになる。十九世紀までの古典絵画の色は固有色でばられていた。子供のぬりえのように空は青く、葉はみどり、土は茶色、顔は肌色、唇は赤い、この公式をはずした絵は例外的な存在であった。光と色、照明によつて変化する色彩の関係を把握して、この固有色を脱却し、ゆたかな色彩の交響楽をタブーにしたのは印象派の画家たち、モネ、マネの仕事はその代表的なものといえよう。

第一問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、\*印の付いた語等については、注を参照しなさい。

くらま寺は普通、鞍馬寺と書く。最初から私はこの文字にこだわっていた。私の頭には、くらまは暗山を縮めて、くらまか、暗間、もしくは暗魔というこの三つの文字がどうしても浮かんでいたのである。

それは京から鞍馬の方角を望む時、こちら側は晴れているのに、その方角の山々はなぜか暗い雲に覆われているのを、しばしば私が疑ったせいかもしれない。X 鞍馬や貴船の雨を逃れて京に入ると、途端にその雨の気配はなく、あかるい陽気に驚いたことがあったためかもしれない。

〔中略〕

私がくらまを暗山、暗間、暗魔と書いた文献を今度、調べてみたが何処にもない。

私はこの四月、京都が花に埋れている季節に昼と夜、鞍馬を訪れてみた。昼にこそ訪れたのは、いわゆる鞍馬のうず松を眺めたいと思つたからである。京にくらべて鞍馬の松は遅い。

ゆく春のとじまる処 遅桜 召波

その句の通り、京は満開だというのに、両側の山々にみえる松はまだ五分咲きでもない。訪れる人々それほどうまい。私は鞍馬寺を越えて更に芹生の里まで行こうと山をのぼったが、深閑として人影一人みえなかった。

その夜、もう一度、車を鞍馬街道に走らせてみた。昼とはちがって、ただ左右に屹立する山と、その山の上にすこし半月がみえるだけで、時々、鳥が鋭く鳴くのが聞える。文字通り暗間であり、その暗間のなかに魔的なものがその山々にすこんでいるような気がした。

現代人の私でさえ、夜、鞍馬に何か魔的なものがひそんでいるような気がしたのであるから、遠い昔、この鞍馬の夜を知つてい

る人々は恐怖と憎しを感じなかった筈はない。一方では鞍馬の山々は「霊山」と書きながら、他方、ここに怖いおぞましいもの出現を語りざるをえなかった人々の気持はわかるような気がする。

寛平年中に東寺の十禪師、本寺において常に紫雲の山、北にそびえたるを見て……此の寺に至る……日中の勤行の時、山北より大蛇匍伏して頭をもたげ、舌を出す。舌ながきこと三尺ばかり、火焰をひるがへす如し。目に千光あり、朝日に向ふとし。

蛇は毒を吐いて、峰延を呑まんとす(鞍馬蓋寺縁起)

また先に引用した禪上人がはじめてこの山にのぼつた夜、鬼魅を見たことが、鞍馬蓋寺縁起にも語られている。

形は婦女に類し、髪は夜叉の如し。眼は電光を輝し、口には毒気を吐く。上人、驚怖して持つところの錫杖を以て、其の鋒を猛火に焼きて、直ちに鬼の胸を刺すに、鬼傾動せず、錫杖をかみくだく事、雪に湯をなぐるごとくにして、須臾に呑み畢す。上人これを見て、色死灰の如し。迷悶躑躅して、西谷の朽ち木の下に逃げ隠れぬ。鬼魅追求して、既に噉食せんとす。其の時

に上人深く一心を凝らし泣きて三宝を念す。爰に朽ち木仆れて忽に鬼魅を押し殺す。

鞍馬ははじめから霊山だったのではない。この二つの文章を読むと、鞍馬は異形なもの、怖いもの、魔のものが住む場所であり、後でその魔の地を Y で霊山に変えたのだということがわかる。くらまはともとも暗間であり闇であり、魔のひそむ暗魔だったのだということが、これらの文章からはかたに想像できるのである。

京から望む鞍馬方面は今こそ我々には鞍馬寺や貴船神社のある場所であり、また桜、新緑、紅葉の折に遊びにいけるハイキングコースだが、ふるい昔はそのような場所ではなかったと思う。それは人間がめつたに住める場所ではなく、人間がみだりに足を踏み入れられぬ山であり、もしそこに足を入れるならば、ある危険が起るような地域——そんな気持を人々に与えていたにちがいない。この意識は鞍馬寺が建てられ、それ以前からあった貴船神社と共にこの山の魔的なものを浄化、霊化したあたり、人々の心に漠然として残つた。それは後に鞍馬にふれた文章を読むと理解できるのである。

たとえば「古今著聞集」に書かれている源頼光が弟の頼信の童、鬼同丸を誅した話である。鬼同丸は頼信の罰を受けて縛られて

いたが逃れて鞍馬にかくれる。

鬼同丸、くらまのかたへ向きて、一原野の辺にて、便宜の処をもとむるに、立ち隠るべき所なし。野飼の牛のあまたありける中に、ことに大なるを殺して、路頭に引きかたて、牛の腹をかき破りて、その中に入りて、目ばかり見出して侍りけり。

この「古今著聞集」のエピソードから我々は二つのことが推量できる。ひとつは鬼同丸のような罪人が京から逃げてかくれるには鞍馬が絶好の場所であったこと、そしてこの地は都に恨みを持った者の恨みがこめられた場所でもあること——この二つの意識が「古今著聞集」のなかにまだ投影しているのである。たしかにこの時代、鞍馬は鬼魅や大蛇が人間を襲う暗黒の地ではなく、たが、そのかわり恨みを持った人間がひそみ、かくれるに適した土地になっていたのだ。そこはまだまだ常人がたやすく足を踏み入れられぬ場所だったからである。

この意識が尾を引いているのが言うまでもなく、例の牛若丸の鞍馬修行の物語であろう。平家のため父を殺された牛若丸が鞍馬寺の東光坊、阿闍梨覚日の弟子となり、僧正ヶ谷で天狗を相手に兵法を習う有名な話にも、先ほど私がふれた二つの意識、京に恨みを持った者がひそみ、かくれる鞍馬、その恨みのこもった鞍馬のイメージが共に響きこまれているのである。

こう考えてみると、くらまはそれが私の身勝手な大胆な想像であつても、暗間、暗魔という字をあてるほうが鞍馬と書くよりは、昔の人々がこの地に抱いたイメージにむしる、びつたり当てはまるような気がしてならない。

( 遠藤周作「くらまの光り」による )

注

- \* 鞍馬寺……………京都市北方を守護する寺、鞍馬山にある。
- \* 霊山……………東の鞍馬山と対する貴船山のことの地名、狭義では貴船神社を指す。
- \* 寛平年中に……………引用文の大意、寛平の頃、東寺の十禪師が鞍馬寺を訪れ、談話をしているときに、山の北方から舌の長い大蛇が現れ、そこには大蛇を呑み込もうとした。
- \* 次に引用した……………一ページの「中略」で鞍馬蓋寺縁起を引き、禪上人が鞍馬山に登つた逸話に触れている。
- \* 鬼魅……………鬼や化け物、妖怪変化。
- \* 形は婦女に類し……………引用文の大意、女のような姿ながら、異形の鬼魅を見た上人は、恐怖のあまり持っていた錫杖の先を焼いて胸を刺したが、鬼魅は瞬く間に杖をかみ砕いてしまった。上人は西谷の朽ち木の下に逃げ隠れ、泣きながら一心に三宝(仏法僧)を念じたところ、朽ち木が倒れて鬼魅を押し殺した。
- \* 誅した……………罪のある者や悪人を殺した。
- \* 阿闍梨……………権僧となるべき高僧。
- \* 僧正ヶ谷……………鞍馬山の北西側にある谷。

問1 a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は a 1 b 2

- 1 屹立
- 2 怯え